



塾生さん、いま何してる？

『塾生の2年間』



【モノづくりで大切にしていきたいことは？】

▶楽しんで作ること。売るためのモノづくりだけでなく、自分が楽しいと感じるモノづくりをしていくことを大切にしていきたい。

塾生としての二年間を振り返り話を聞くと、「二年目にはいり、自分のやるべきことを理解し、目標をたて、その目標を達成するためどのように動くのか、把握してモノづくりに集中できる時間が楽しかった。」と教えてくれました。

▼現在の「オケクラフト作り手養成塾」の研修期間は二年間。経験者も未経験者も、基本はその期間が変わることはありません。今年の三月で研修を終える前田さんは、この二年間を「早かった」と伝えてくれました。今は三月の卒業と、作り手としての独立に向け、準備をしながら自らの卒業展に並ぶ作品づくりを進めています。卒業展に合わせて製作された作品は十五種類。それぞれ六、七個が塗装作業を待っている状態です。

【日本の手仕事-編物と刳物-】

日本の生活の中には、自然素材で作られた物が当たり前にあります。それは、日本が山や川など、多くの自然に囲まれた国だったから。身近にあった自然に敬意を示し、時に畏れながら大切に関わってきたことの証でもあります。そんな日本の心を表している生活道具の一つに、最も古い工作技法とされる編物と刳物があります。

編物-あみもの-とは

歴史は古く縄文時代が始まりと言われる。本来、風土性の強い物がないとされたが、寒冷地では自生しない竹の代用品として、東北地方で樹皮や蔓が使用されたことで風土性の強い物が生まれた。

刳物-くりもの-とは

木材を削りぬいて成形した物のことをいい、始まりは編物と同じく縄文時代とされる。一枚の厚板を削りぬくため均一で割れにくいトチが適材とされる。

今日は何を知ろうか

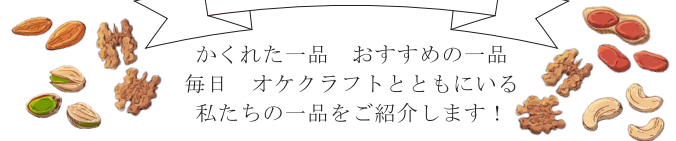
ふか
コレ
クシ
ン



生産地：岩手県
クルミの樹皮を用いた盛り籠

編物・刳物については「日本の手仕事道具 17 集」で詳しく紹介しています。

今月の一品



かくれた一品 おすすめの一品
毎日 オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！



商品名：ナッツボウル
サイズ：径 104mm
高さ 55mm
価格：2,200 円（税別）
樹種：エゾマツ

今回おすすめするのは、工房優木の「ナッツボウル」です。小振りながらも木目を楽しめる器。オケクラフト作り手養成塾では研修課題の一つに選ばれたこともあり、私が初めて使ったオケクラフトはナッツボウルで、その時は柿の種を入れましたが、いつもよりも数段美味しくて感動したことを覚えています。飽きのこないシンプルでデザイン。あれから二十五年以上経つ今も現役で活躍中です。



ショップ販売員
青木

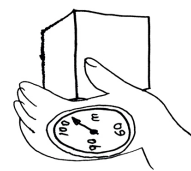
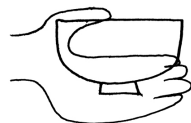
「触れて 見る」

鹿の子沢季節便りが、【冬特別号】として発行されましたね。あれこれでも「森のリレー」を特別復活です。

冬特別号では、雪に閉ざされた鹿の子沢を知ることができました。変わらずそこにあったのに、なくなることで気付くもの。自然の強さをより肌で感じる冬は、空気が澄んでいつもよりも感覚が鋭くなる感じがして心地よいです。

さて、冬だからというわけではないのですが、日本人は元来感覚が鋭いらしい。というのも、**「日本人は触覚民族」**だと秋岡芳夫さんが自身の著書で述べられています。

この聞き慣れない言葉。でも、聞いて納得。皆さん、食器を買うとき、お箸を買うとき、洋服や手袋などなど…。手で触れ、その感触を確かめ自分の感覚に合うことを確認してから購入していませんか？幼い頃からお箸を使い、手先を器用に動かす日本人は、手先で感じる感触に敏感なようです。「器は手で買う」と秋岡さんが言うように、手で感じる心地よさに素直に器も購入してみてください。



イラスト…秋岡芳夫

秋岡芳夫 著
「食器の買い方選び方」参考

「あれこれ一年間の編集後記」

◎皆さんに伝えたいことが多すぎて、情報量の多い紙面になっているなど、感じています。少しでも読みやすい紙面づくりを心がけていこうと思います。

◎「こんなことが知りたい」「面白かった」「ちょっと難しい」など、感想をお聞かせいただけると嬉しいのです。これからもよろしくお願ひいたします。



【卒業展のおしらせ】
今年卒業展を迎える前田さんの卒業展を、四月中旬より開催予定です。モノづくりを楽しみながら製作された前田さんの作品を見に、森林工芸館まで、ぜひお越しください。